

タケノコメバルの資源回復に向けて！

(栽培漁業センター 主任研究員三木勝洋)

平成16年度は夏季の高水温と交配時期に来た台風の影響で、タケノコメバルが仔魚を生まず、県内の漁業の皆様の期待にこたえられず、ご迷惑をおかけしました。

しかし、今年度は昨年秋から人工授精(まだ、試験中なので詳細はお知らせできません)に取り組み、仔魚を得ることができました。また、育成中の親魚からも、自然産仔の仔魚を得て、50万尾の仔魚を元に量産を始めています。

5月には、50mmにまで大きく育ったタケノコメバルを放流できるでしょう。



人工授精の様子



生まれたばかりの仔魚(約7.5mm)



仔魚を水槽に収容



この水槽に10万~20万尾入れて量産開始